

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
巻頭					
適宜	適宜	巻頭 [教科書 表 2、P.17]	A(表現) B(鑑賞) 全て 共通ア・イ	① 漫画の言葉を題材にした書作品を鑑賞し、言葉を書で表現することの魅力や書の可能性、表現の喜びを感じ取るとともに、これからの学習への関心・意欲を高める。	(1) 書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。 (3) 芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
4月	1	書道で学習すること [教科書 P.20-21]	A・B 全て 共通ア・イ	① 書道の三分野を確認し、臨書・鑑賞・創作の学習を通して、自己の創造的な表現に生かすことを理解する。 ② 臨書の方法、拓本に関する基礎的な知識を身につける。	
		書写から書道へ [教科書 P.22]	A・B 全て 共通ア・イ	① 「風花」の文字の違いについて、何が違うかグループで話し合う。 ② 教科書 P.126 「書写で学習したこと」を参照し、筆使い、字形、文字の大きさと配列など、小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。	
漢字の書					
4月	1. はじめに				
	1	漢字の変遷とさまざまな書体 [教科書 P.24-25]	B ア(ア) イ(イ)(ウ) 共通ア・イ	① 漢字には五つの書体があることを理解する。 ② それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。	(1) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 (2) 漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3) 漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	2. 文字の造形を学ぶ				
	2	【楷書】 あなたは、どの楷書が好き？ [教科書 P.26-27]	A(2) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(エ) 共通ア・イ	① A～Dのグループの文字を比較し、自分が好きなものを選ぶ。 ② その文字を選んだ理由や受ける印象を自由に話し合う。 ③ 選んだ文字ごとにグループを作り、自分が受けた印象は、文字を形成するどの要素から感じ取れるかを話し合う。 ④ 文字から受ける印象と、それを形成する要素(字形や線質、点画などの特徴)を関連づけ、自分の言葉でまとめる。	※教科書 P.26-47 (1) 楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。
		唐の四大家に学ぶ楷書の基本 [教科書 P.28-29]		① 唐の四大家の人物や政治的立場など、その人物像を理解する(適宜、教科書 P.33、37、41、45を参照する)。 ② 初唐の三大家と太宗の関係について理解する。 ③ 唐の四大家の代表作を知り、P26-27で学習した4種類の文字を、書道史において果たした役割や位置づけに関連づけて理解する。	(2) 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3) 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標	
		<p>※次時以降の臨書（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」）については、幾つかの古典を選択して扱ったり、教科書 P. 26-27 で生徒が選択した古典を臨書させたりすることも考えられる。配当時数は、4 古典全体で 8 時間としている。選択する古典の数により調整する。</p>				
5 月	8 (2)	孔子廟堂碑 [教科書 P.30-33]	A(2) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 30-31「孔子廟堂碑」を鑑賞し、伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形がもたらす柔和な書風を感じ取る。 ② 「孔子廟堂碑」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、虞世南の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ③ 教科書 P. 33「学習のめあて」を理解し、点画の長さ、向勢の構えなど、①・②のポイントを中心に確認する。 ④ 横画や転折、右払いなど、特徴的な点画を繰り返し書き、ゆったりとした運筆リズムを習得する。 ⑤ ③④で確認した用筆や字形を意識して臨書する。	[1 ページ 参照]	
	(2)	九成宮醴泉銘 [教科書 P.34-37]		① 教科書 P. 34-35「九成宮醴泉銘」を鑑賞し、直線的で鋭い点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。 ② 「九成宮醴泉銘」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、歐陽詢の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ③ 教科書 P. 37「学習のめあて」を理解し、点画の構成、背勢の構えなど、①・②③のポイントを中心に確認する。 ④ 横画や転折など、特徴的な点画を繰り返し書き、鋭く打ち直すような転折の用筆を習得する。 ⑤ ③④で確認した用筆や字形を意識して臨書する。		
	(2)	雁塔聖教序 [教科書 P.38-41]		① 教科書 P. 38-39「雁塔聖教序」を鑑賞し、行書的な用筆による変化に富んだ点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。 ② 「雁塔聖教序」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、褚遂良の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ③ 教科書 P. 41「学習のめあて」を理解し、運筆や筆圧の変化、行書的な筆脈など、①・②のポイントを中心に確認する。 ④ 横画を繰り返し書き、藏鋒や抑揚を利かせた用筆を習得する。 ⑤ ③④で確認した用筆や字形を意識して臨書する。		

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
6月	(2)	顔氏家廟碑 [教科書 P.42-45]	A2 ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P.42-43「顔氏家廟碑」を鑑賞し、肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。 ② 「顔氏家廟碑」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意、顔真卿の人物像や書道史における位置づけを理解する。 ③ 教科書 P.45「学習のめあて」を理解し、力のこもった用筆、蚕頭燕尾、正方形で向勢の構えなど、①・②・③のポイントを中心に確認する。 ④ 横画や右払いなど、特徴的な点画を繰り返し書き、藏鋒や蚕頭燕尾の用筆を習得する。 ⑤ ③④で確認した用筆や字形を意識して臨書する。	[1 ページ 参照]
	1	鑑賞を始めよう [教科書 P.46-47]		① 四つの古典から受ける全体的な印象、イメージ（風趣）を「鑑賞のための言葉」を参考にして言葉で表す。 ② 「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」の「用筆」と「九成宮醴泉銘」「顔氏家廟碑」の「字形」を比較分析し、それぞれの特徴を書き留める。 ③ 鑑賞を通して気づいたことや、最初の印象との変化などについて話し合う。	
	4	※「牛橛造像記」と「鄭義下碑」については、いずれかを選択、または北魏の書として対比しながら一体的に扱うことも考えられる。			
		牛橛造像記 卷末折込「龍門二十品」 [教科書 P.48-49、153-156]	A2 ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 龍門石窟と龍門造像記についての概要を理解する。 ② 卷末折込「龍門二十品」を参考にして、龍門造像記のさまざまな名品を鑑賞し、刻法によって生じる独特の点画や字形のありようを確認する。 ③ 教科書 P.49「学習のめあて」を理解し、鋭角的な点画や方勢など、①・②のポイントを中心に確認する。 ④ 「牛橛造像記」と「鄭義下碑」の文字を比較し、方勢と円勢の意味を理解する。 ⑤ 「牛橛造像記」の鑑賞・臨書を通して、③④で確認した用筆や字形などの特色を理解する。	※教科書 P.48-53、153-156 (1)・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 (2)・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
		鄭義下碑 【コラム】「摩崖」の書 [教科書 P.50-51]		① 教科書 P.51 のコラムを読み、摩崖とは何かを理解する。 ② 「鄭義下碑」が作られた経緯や書風、碑文の内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P.49 で「牛橛造像記」と「鄭義下碑」の文字を比較し、方勢と円勢の意味を再確認する。 ④ 「鄭義下碑」の鑑賞・臨書を通して、丸みのある点画や、空間を包むような大回りの運筆、悠然とした文字の構えなどの特色を理解する。	(3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
6月	1	隅寺心経 [教科書 P.52-53]	A2 ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 52「学習のめあて」を確認し、小楷の用途を理解する。 ② 「隅寺心経」の来歴や、写経に見られる書風を理解する。 ③ 「隅寺心経」の鑑賞・臨書を通して、写経特有の端正な字形や、穂先を利用した用筆などの特色を理解する。	[3 ページ 参照]
7月	4	【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 巻末折込「蘭亭序」 [教科書 P.54-58、145-148] 【コラム】 印でわかる古典の真価 [教科書 P.59]	A2 ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(ウ) イ(エ) 共通ア・イ	① 行書の成立過程や通行書体としての性質(教科書 P. 24-25)を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 ② 巻末折込「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取る。 ③ 教科書 P. 56-58 を参考にして、書道史における書聖・王羲之と「蘭亭序」の価値を理解し、その書風や文章の内容を理解する。 ④ 教科書 P. 55 「学習のめあて」を理解し、抑揚を利かせた用筆、多様な字形など、 ①・② のポイントを中心に、確認する。 ⑤ 筆脈と抑揚を意識して臨書する。 ① 鑑蔵印の用途と、「蘭亭序」に押された印のそれぞれの由来を理解する。 ② 鑑蔵印は、名筆の伝来や評価の歴史を知る手がかりとなることを理解する。	※教科書 P. 54-65、141-148 (1) 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 (2) 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3) 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	2	争坐位文稿 [教科書 P.60] 蜀素帖 [教科書 P.61]	A2 ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(ウ) イ(エ) 共通ア・イ	① 顔真卿の人物像や、楷書の発展にも大きく寄与したこと(教科書 P. 42-45「顔氏家廟碑」)を再確認する。 ② 「争坐位文稿」が書かれた経緯や書風、文章の内容と大意を理解する。 ③ 「争坐位文稿」の鑑賞・臨書を通して、抑揚を利かせた運筆やどっしりと構えた文字、点画の連続などの特色を理解する。 ① 米芾の人物像や書道史における位置づけについて理解する。 ② 「蜀素帖」が書かれた経緯や書風、文章の内容と大意を理解する。 ③ 「蜀素帖」の鑑賞・臨書を通して、縦長で左傾した文字の構えや、大胆な筆圧の変化、起筆を太くするための蔵鋒的な用筆などの特色を理解する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標	
9月	3	風信帖 卷末折込「風信帖」 [教科書 P.62-63、141-144]	A(2) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ)	① 空海の人物像や書道史における位置づけについて理解する。 ② 卷末折込「風信帖」を確認し、「風信帖」が書かれた経緯や書風、文章の内容と大意を理解する。 ③ 教科書 P.63「学習のめあて」を理解し、重厚感のある用筆、安定した字形など、①・②のポイントを中心に確認する。 ④ 「風信帖」の鑑賞・臨書を通して、③で確認した用筆や字形などの特色を理解する。	[4 ページ 参照]	
		三筆・三跡の書 [教科書 P.64-65]	B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(ウ) (エ)	① 三筆と三跡の書を比較し、書風の違いを理解する。 ② 三筆と三跡、それぞれの時代背景を知り、唐の書法を受容から国風化へ向かう流れを理解する。		
	3	※草書・隸書・篆書については、生徒や学校の特性等を考慮し、いずれかを選択することや、いずれも扱わないことが考えられる。				
		【草書】 真草千字文 [教科書 P.66-67]	A(2) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ)	① 草書の成立過程や通行書体としての性質（教科書 P.24-25）を再確認する。 ② 「真草千字文」が作られた経緯や書風について理解する。 ③ 教科書 P.67「学習のめあて」と「草書の成立・特徴」を確認し、草書の点画や線質の特徴を理解する。 ④ 「真草千字文」を鑑賞・臨書し、草書の特徴である点画の連続や省略、柔らかく丸みのある用筆などを理解する。	(1)・草書・隸書・篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 ・草書・隸書・篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 (2)・草書・隸書・篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・草書・隸書・篆書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	
		【隸書】 曹全碑 [教科書 P.68-69]	B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(ウ) (エ)	① 隸書の成立過程や公式書体としての性質（教科書 P.24-25）を再確認する。 ② 「曹全碑」が作られた経緯や書風について理解する。 ③ 教科書 P.69「学習のめあて」「隸書の成立・特徴」を確認し、八分の字形や線質、用筆の特徴を理解する。 ④ 「曹全碑」を鑑賞・臨書し、八分特有の扁平な字形、藏鋒、中鋒などの用筆、また、波磔、転折、右払い、左払いなどの形と用筆を理解する。		
		【篆書】 泰山刻石 [教科書 P.70-71]	共通ア・イ	① 篆書の成立過程や小篆の公式書体としての性質（教科書 P.24-25）を再確認する。 ② 「泰山刻石」が作られた経緯や書風について理解する。 ③ 教科書 P.71「学習のめあて」「篆書の成立・特徴」を確認し、小篆の字形や線質、用筆の特徴を理解する。 ④ 「泰山刻石」を鑑賞・臨書し、小篆特有の縦長で左右相称の構えや水平・垂直を基本とする点画構成、均一な線の太さ、藏鋒、中鋒などの用筆を理解する。		

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
10月	3. 創作する				
	4	古典を生かした創作 [教科書 P.72-73]	A(2) 全て B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書P.72「創作の3ステップ」を確認し、創作の手順を理解する。 ② 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③ これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ④ 試作を重ね、表現を工夫する。 ⑤ 落款を入れ、作品を仕上げ上げる。 ⑥ 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	※教科書 P. 72-76 (1)・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 ・漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。 (2)・漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	1	創作例 [教科書 P.74-75]		① 作例を鑑賞し、表現しようとするイメージや文字数に合わせて、用紙の大きさや形を選ぶ必要があることを理解する。 ② 作例を鑑賞し、用紙に調和する文字の大きさや配置について理解する。	
	1	【コラム】さまざまな書の姿 [教科書 P.76]		① 題簽を鑑賞し、同じ文字、同じ筆者であっても書体や表現の方法によって書の姿が大きく変容することを理解する。 ② 題簽を鑑賞し、それぞれの書体の特徴やどのような工夫がされているかを理解する。 ③ 筆使いやリズムなどを考えて、創作の参考にできるところに着目する。	

仮名の書					
10月	1. はじめに				
	1	仮名の成立と種類 [教科書 P.78-79]	B ア(ア) イ(イ)(ウ) 共通ア・イ	① 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 ② 万葉仮名から草仮名を経て女手に至る仮名文字の推移と、それぞれの性質を理解する。 ③ 仮名が、現在使われている一音一字の平仮名に統一された経緯を知り、平仮名と変体仮名の違いを理解する。 ④ 平仮名とは系統の異なる、片仮名の成立と字源について理解する。	※教科書 P. 78-87 (1)・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 (2)・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
11月	2. 文字の造形を学ぶ				
	3	仮名の筆使い [教科書 P.80-81]	A(3) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(イ) イ(ア) イ(イ)(エ) 共通ア・イ	① 横の線、縦の線、転折、円運動、結びなど、仮名の基本的な用筆・運筆を理解する。 ② 基本的な筆使いを繰り返し練習し、仮名に特有の用筆・運筆を習得する。	
		平仮名 [教科書 P.82-83]		① 平仮名の字源を知り、正確に字形を捉える。 ② 教科書を墨の付いていない小筆でなぞり、筆使いの留意点を確認する。 ③ 字形や筆使いを意識しながら臨書する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
11月		変体仮名 [教科書 P.84-85]	A(3) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) (イ)	① 平仮名と変体仮名を比較し、平仮名と同じ字源・違う字源の変体仮名をそれぞれ確認する。 ② 教科書を墨の付いていない小筆でなぞり、正確に字形を捉えるとともに、筆使いの留意点を確認する。 ③ 字形や筆使いを意識しながら臨書する。	[6 ページ 参照]
	2	蓬萊切 [教科書 P.86-87]	イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 「蓬萊切」を鑑賞し、端正な字形や清らかで平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。 ② 教科書 P.87 「学習のめあて」を確認する。 ③ 「蓬萊切」の伝来や和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ④ 「古筆の主な特徴」を参考に、古筆の用筆や仮名遣いの特徴を理解し、変体仮名の読み方を確認する。	
	2	高野切第三種 [教科書 P.88-91]	A(3) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P.88-89 「高野切第三種」を鑑賞し、伸びやかな線質や、流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。 ② 教科書 P.90 「学習のめあて」を確認する。 ③ 「高野切」の伝来と「第三種」の意味、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ④ 「高野切第三種」をもとに、連綿にはさまざまな法規があることを理解する。 ⑤ 臨書する部分を観察し、意連・形連のしかたや筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認する。 ⑥ 伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。	(1) ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形や構成を生かした表現をするための技能を身につける。 (2) ・仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3) ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	2	表現を比べよう 関戸本古今和歌集 元永本古今和歌集 [教科書 P.92-93]		① 掲出部分が、いずれも『古今和歌集』の同じ歌を書写したものであることを理解し、文字の拡大の読み方(「うらめづらしき」)を確認する。 ② 「関戸本古今和歌集」と「元永本古今和歌集」の拡大した文字を比較し、表現の特徴やそこから受ける印象の違いについてグループで話し合う。 ③ 平仮名と変体仮名の調和、線質、連綿、文字の配置などの観点で、それぞれの表現の特徴を確かめ、その効果を理解する。 ④ 「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」の伝来や、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ⑤ 表現の違いに留意し、それぞれの書風や表現の特徴に即した用筆を意識して「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」を臨書する。(※文字の拡大部分のみ臨書し、比較してもよい。)	
12月	1	受け継がれる仮名の書 [教科書 P.94-95]		① 「本阿弥切本古今和歌集」の例をもとに、古筆がさまざまな形で受け継がれてきたことを理解する。 ② 「さまざまな形で受け継ぐ」を確認し、手鑑や掛軸など、古筆切を継承し鑑賞するために生み出された形式を知る。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
12月		3. 構成を学ぶ			
	2	継色紙 [教科書 P.96-97] 寸松庵色紙 升色紙 [教科書 P.98-99]	A(3) ア(ア) イ(イ) ウ(ア)(イ) B ア(ア) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 97「学習のめあて」を確認する。 ② 「継色紙」と「方丈庭園」を合わせて鑑賞することで、日本文化における「間」の美意識について理解する。 ③ 「寸松庵色紙」と「升色紙」を比較し、紙面構成の特徴や、そこから受ける印象の違いについてグループで話し合う。 ④ 文字群と余白の位置、字間・行間、文字の大きさ、線の太さの変化などの観点で、それぞれの紙面構成の特徴を確かめ、その効果を理解する。 ⑤ 「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」の伝来や、和歌の内容と大意、書風や料紙について理解する。 ⑥ 行や文字群の構成に留意して、「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」を臨書する。(※いずれか一つを選択して臨書してもよい。)	(1)・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 (2)・仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
	1	さまざまな構成方法 [教科書 P.100-101]		① 散らし書きと行書きの違いを理解する。 ② 散らし書きにも、さまざまな構成方法があることを知り、それぞれの技法を理解する。 ③ 紙面構成の例を比較して、それらの表現効果がどのような要素から生まれるかを考え、発表する。 ④ 紙面構成を決めて「ちはやふる……」を書き、グループで表現の効果を話し合う。	
1月		4. 創作する			
	5	古筆を生かした創作 [教科書 P.102-103]	A(3)全て B ア(ア) (イ) イ(ア) (イ)(エ) 共通ア・イ	① 教科書 P. 102「創作の3ステップ」を確認して、創作の手順を理解する。 ② 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③ これまでに学んだ古筆を参考にしながら作品の構想を練り、平仮名・変体仮名の組み合わせ方や連綿のしかた、用具・用材、全体構成を考える。 ④ 試作を重ね、表現を工夫する。 ⑤ 落款を入れ、作品を仕上げる。 ⑥ 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	
		創作例 [教科書.104-105]		① 作例や教科書 P. 128 [紙の規格]などを確認し、仮名に使われる紙面形式(色紙・かるた・短冊・扇面・懐紙など)とそれぞれの寸法を確認する。 ② 作例を鑑賞し、紙面形式に調和する文字の大きさや配置について理解する。	
	1	【コラム】美しい料紙の世界 [教科書 P.106]		① 「本願寺本三十六人家集」を鑑賞し、仮名の表現と料紙の調和について理解する。 ② 料紙の種類や制作技法について理解する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
漢字仮名交じりの書					
1月	1. はじめに				
	1	漢字仮名交じりの書とは [教科書 P.108-109]	A(1) ア(ア) ウ(ウ) イ(イ) ウ(ア) イ(イ)	① 漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。 ② 漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。	(1)・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解する。 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。 (2)・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
2月 3月	1	心に響く言葉を書く [教科書 P.110-111]	B ア(ア) イ(ア) イ(イ) 共通ア・イ	① 書かれている言葉に着目して、言葉を表現するためにどのような表現の工夫が見られるか、書体や書風、紙面構成、用具・用材の観点からグループで話し合う。 ② それらの工夫がどのような表現効果を生んでいるかを話し合う。 ③ 作品を鑑賞し、それぞれの表現のよさを味わうとともに、次時からの創作への見通しをもつ。	
2. 創作する					
	3	好きな言葉を書こう [教科書 P.112-113]	A(1)全て B全て 共通ア・イ	① 教科書P.112「創作の3ステップ」を確認して、創作の手順を理解する。 ② 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③ 古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④ 試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤ 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	
	2	あなたは、どの書が好き? [教科書 P.114-115]		① 各作品から受ける印象や、特に惹かれた作品についてグループで話し合う。 ② 惹かれた原因がどのような表現の工夫によるものか、紙面構成、墨の使い方の観点から確認する。	
		表現の幅を広げよう [教科書 P.116-117]		① 文字の大きさや配列、使う用具・用材によって表現の印象が大きく変化することを理解する。 ② 各作品の「印象・イメージ」、「紙面構成の特徴」について自分の言葉で書き留める。 ③ 創作作品への生かし方を考える。	
	2	文士の書を見に行こう [教科書 P.118-122]		① 文士の書を鑑賞し、受ける印象や特に惹かれた作品についてグループで話し合う。 ② 文士の中には、書への造詣が深く、書で表現していた人が多くいることを知る。 ③ 文士の文学作品や人柄について理解を深め、書に表れた筆者の個性を感じ取る。	
		[コラム]文士の署名 [教科書 P.123]		① 文士の署名を鑑賞し、受ける印象や筆記具、書体の違いなど、グループで話し合う。 ② 文士の文学作品や人柄について理解を深め、文士の息づかいや書風に表れた個性を感じ取る。	
	1	漢字仮名交じり文と日本語表記 [教科書 P.124]		① 各時代の漢字仮名交じり文の表現の移り変わりと、時代による文字文化の広がりについて理解する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
篆刻 刻字					
2月 3月	4	篆刻 [教科書 P.2-11]	A・B 全て 共通ア・イ	① 印の使い方や種類を理解する。 ② 篆刻に必要な用具とその使い方を理解する。 ③ 教科書P.10-11「さまざまな姓名印」「落款と落款印」を鑑賞し、構想や表現に生かす。 ④ 選文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解する。 ⑤ 白文印か朱文印かを選び、印を制作する。	(1)・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 ・漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。 (2)・漢字の書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		刻字 [教科書 P.12-16]	A・B 全て 共通ア・イ	① 刻字の活用方法や種類を理解する。 ② 刻字に必要な用具とその使い方を理解する。 ③ 原稿の作成から彩色までの制作手順を理解する。 ④ 陰刻か陽刻かを選び、刻字に取り組む。 ⑤ 教科書P.16「街に息づく刻字」を鑑賞し、身の回りにおける刻字に関心をもつ。	
資料					
適宜	適宜	書写・書道の基本 [教科書 P.126-130]	A(1) ア(ア) イ(ア) ウ(イ) A(2) イ(ア) A(3) イ(ア) B ア(イ) イ(イ)(エ)	「書写で学習したこと」 ・ 楷書・行書・仮名の筆使い、字形、文字の大きさと配列など、小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。 「書くときの姿勢」「筆の持ち方・構え方」 ・ 書くときの姿勢や、基本的な筆の持ち方・構え方を身につけ、目的や場面に応じて適切に使い分ける必要があることを理解する。 「用具・用材と扱い方」 ・ 用具・用材(筆・紙・墨・硯)の種類や規格と、それぞれの特性や用途、製法について理解する。 ・ 掛軸、冊子本、卷子本などの表具の種類について理解する。	※教科書 P.126-140、149-152、157 (1)・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。 ・ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・ 書写能力を向上させるとともに、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につける。 (2)・意図に基づいた表現について構想し工夫する。 ・ 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 (3)・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
		【コラム】拓本の採り方 [教科書 P.131]		① 教科書 P.21 を参照するなどして、書の古典は、多くの場合、拓本によって伝存してきたことを確認する。 ② 湿拓法と乾拓法の違いを理解する。 ③ 湿拓法に必要な用具・用材と、採拓の工程を理解する。	
		生活の中の書 [教科書 P.132-137]	A 全て B ア(イ)	「手紙の書き方」「封筒の書き方」「はがきの書き方」 ・ 基本的な手紙の書式や、封筒・はがきの表書きなど、定型書式の書き方を確認する。 「一筆箋の書き方」「送り状の書き方」「履歴書の書き方」「表書きの書き方」 ・ 一筆箋や送り状、履歴書やのし袋の表書きなど、生活の中の書の書き方を確認する。	

月	時数	単元名・教材名	指導事項	学習活動	目標
適宜	適宜	書道事典 巻末折込「書道史略年表」 [教科書 P.138-139、140、149-152、157]	A全て B ア(イ) イ(ア)(イ) (エ)	「書道用語一覧」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本編の学習において必要に応じて活用し、学習事項についての理解を深める 「美術館・博物館へ行こう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館・博物館において実際に名筆を鑑賞し体感することの価値を理解する。 巻末折込「書道史略年表」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「書道I」で学習した書体や古典について、それらが成立した時代や文化的背景、成立に至る流れなどを確認する。 「日本・中国書道関係地図」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本編の学習において必要に応じて活用し、学習事項についての理解を深める ・ これまでに学んできた日中の古典・古筆の名跡の収蔵先を地図で確認する。 	[10 ページ 参照]